

第 7 期 柏市 高齢者いきいきプラン 2 1 に係る  
基礎調査について

## I 調査の概要

### 1 日常生活圏域ニーズ調査（「健康とくらしの調査」）

#### (1) 目的

日常生活圏域ごとの高齢者の状態像，社会環境やその課題等を把握して，高齢者の社会参加や介護予防等を効果的に進めるための施策展開の基礎資料とする。

#### (2) 対象

平成 2 8 年 1 0 月 1 日時点で，6 5 歳以上である要介護（要支援）認定を受けていない一般高齢者及び要支援認定者が対象。

平成 2 5 年に行った同調査の回答者から，要介護認定・死亡・転出を除いた 3，8 1 8 名に加え，新たに 2 0 コミュニティエリアにおいて 2，1 8 2 名の無作為抽出を行い，合計 6，0 0 0 名を調査の対象とした。

(3) 調査期間 平成 2 8 年 1 1 月 1 4 日（月）～ 1 2 月 5 日（月）

(4) 配布数 6，0 0 0 件

(5) 返送数 4，5 5 0 件

(6) 回収率 7 5 . 8 %

#### (7) 回答者の属性

※年齢が無回答の者及び「6 4 歳以下である」と回答したものは集計から除外し，4，4 0 2 件を集計している。

圏域	男性	女性	無回答	合計
北部 1	261	303	/	564
北部 2	323	302		625
中央 1	308	350		658
中央 2	329	342		671
南部 1	374	387		761
南部 2	207	273		480
沼南	267	313		580
市全体	2069	2270		63

圏域	前期高齢者	後期高齢者	無回答	合計
北部 1	345	220		565
北部 2	381	245		626
中央 1	348	313		661
中央 2	373	300		673
南部 1	435	328		763
南部 2	261	220		481
沼南	348	237		585
市全体	2491	1863	48	4402

無回答 48 件については、年齢を回答したが、圏域が不明で集計が出来なかったもの

#### (7) 活用方法

- ①自治体間や日常生活圏域間での比較分析を行い、その特徴や課題を明確化する。
- ②要介護状態となるリスクが、どのような要因と関連しているのか分析し、介護予防に効果的な介入の施策などの参考とする。

## 2 特養養護老人ホーム待機者調査

### (1) 目的

特別養護老人ホームの入所待機者の心身状態や介護者及び待機の状況等を調査して、介護保険施設の必要量を見込むための基礎資料とする。

### (2) 対象

平成 28 年 11 月時点で、特別養護老人ホーム（以下、「特養」）24 施設に入所申込を提出している市民で、死亡、転出及び特養へ入所済みを除いた残りの方（「特養待機者本人」）の申込み者に調査票を発送した。

(3) 調査期間 平成 28 年 11 月 17 日(木) ～ 12 月 12 日(月)

(4) 配布数 639 件

(5) 返送数 427 件

(6) 回収率 66.8%

※アンケートを回収したが、回答困難等の理由により記載無しで返送されたものを差し引くと回答数 370 件、回答率 57.9%

### (7) 回答者の属性

	人数	割合 (%)
65歳未満	6	1.4
前期高齢者	46	10.8
後期高齢者	372	87.1
不明	3	0.7
合計	427	100.0

	人数	割合 (%)
男性	156	36.5
女性	268	62.8
不明	3	0.7
合計	427	100.0

	人数	割合 (%)
介護度なし	1	0.0
要介護1	2	0.4
要介護2	22	5.2
要介護3	146	34.2
要介護4	144	33.7
要介護5	109	25.5
不明	3	0.7
合計	427	100.0

### (7) 活用方法

- ①特養待機者の生活状況等の現状とその入所申込の理由を確認するとともに、特養を選ぶに際しどういったことを重視するかについて確認することで、介護保険施設を初めとしたサービス必要量の推計の参考とする。
- ②介護サービスの利用状況や住まいの状況等について確認することで、在宅介護の限界点を上げる施策の参考とする。

## 3 ケアマネジャー調査

### (1) 目的

ケアマネジャーが在宅介護サービスの利用調整に当たって課題と感じている内容や不足するサービス種類等について把握し、サービス提供基盤と地域包括ケア推進のための基礎資料とする。

### (2) 対象

柏市介護支援専門員協議会に所属し、市内事業所に勤務しているケアマネジャー319人を対象にした。

(3) 調査期間 平成28年11月17日(木)～12月12日(月)

(4) 配布数 319件

(5) 返送数 220件

(6) 回収率 69.0%

#### (7) 回答者の属性

	人数	割合 (%)
30 歳未満	0	0
30～39 歳	33	15.0
40～49 歳	68	30.9
50～59 歳	76	34.5
60 歳以上	42	19.1
無 回 答	1	0.5
合 計	220	100.0

	人数	割合 (%)
男性	32	14.5
女性	186	84.5
無回答	2	0.9
合計	220	100.0

#### (7) 活用方法

- ①介護保険サービス等について、「利用希望が多いサービス／不足していると感じるサービス、充実させるべきサービス」の差異を確認し、必要な介護サービス種類とその充足に向けた施策の参考とする。
- ②ケアマネジャー業務を行う上で困難であると感じていることや、ケアマネジメント業務における課題などを把握することにより、円滑な多職種連携等のあり方を検討する。

### 4 サービス未利用者調査

#### (1) 目的

6 か月間継続して介護保険サービスを全く利用していない要介護（要支援）者の未利用の理由や心身状態等を調査し、その要因等を把握して不足するサービスの種類や課題を検討する基礎資料とする。

#### (2) 対象

要介護又は要支援の区分認定を受けているが、介護又は介護予防サービスを一切利用していない方について、要支援1から要介護5までの各段階につきそれぞれ80名ずつ抽出した。

(3) 調査期間 平成28年11月17日(木)～12月12日(月)

(4) 配布数 554件

(5) 返送数 287件

※うち61人は、平成28年10月1日以降に介護サービスを利用したため、集計からは除外し残りの226人で集計した。

(6) 回収率 51.8%

(7) 回答者の属性（226人）

	人数	割合 (%)
65歳未満	10	4.4
前期高齢者	44	19.4
後期高齢者	165	73.0
無回答	7	3.1
合計	226	100.0

	人数	割合 (%)
男性	84	37.2
女性	134	59.3
不明	8	3.5
合計	226	100.0

	人数	割合 (%)
要支援1	45	19.9
要支援2	35	15.5
要介護1	24	10.6
要介護2	29	12.8
要介護3	17	7.5
要介護4	13	5.8
要介護5	16	7.1
事業対象者	0	0
わからない	7	3.1
無回答	40	17.7
合計	226	100.0

(7) 活用方法

- ①世帯の状況やサービス未利用の理由などから、サービスを利用しない要因等を把握し、情報提供のあり方や介護者等への支援の参考とする。
- ②在宅で暮らし続けるために必要なことや今後利用してみたい介護サービス、日常生活での不安・悩み、普段の生活の中で手助けしてほしいこと、などの要望を把握し、在宅生活を継続するために必要なサービス内容の検討の参考とする。

## Ⅱ 調査結果の概況（※回答率は全て小数点切捨て）

### 1 日常生活圏域調査（「健康とくらしの調査」）

(1) 柏市と大規模市の平均を比べ、統計上その差がとても大きいと示された事項は以下のとおりである。

- ・口腔機能低下者割合は、「80-84歳」でとても低い。
- ・要介護リスク者割合は、「80-84歳」でとても低い。
- ・スポーツの会参加者割合は「65-69歳」「70-74歳」でとても高い。
- ・趣味の会参加者割合は、「70-74歳」でとても高い。
- ・ボランティア参加者割合は「70-74歳」でとても高い。
- ・学習・教養サークル参加者割合は、「70-74歳」でとても高い。

以上の結果を見ると、柏市と大規模市の平均を比べ、その差が大きいものについては、いずれも高齢者の健康に良い影響を与えると思われる事項であった。

(2) 健康状態について質問したところ、健康状態が良い方が83.9%となっている。介護の必要がない方が88.2%である。一方「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」という設問で24.2%が「はい」と回答している。また、転倒への不安について質問したところ、「とても不安」「やや不安」が38.1%となっている。現在の健康状態を良いと回答する方が多い一方で、健康状態の悪化や不安を感じている方がいることがうかがえる。

(3) 世帯について質問したところ、一人暮らし世帯は13.6%であり、配偶者との二人暮らしは54.8%、子どもとの同居は17.4%であった。なお、前回調査（3年前）では、一人暮らし世帯は11.9%であり、一人暮らし世帯がやや増加していることがうかがえる。

(4) 日常生活での不安では、「認知症にならないかが心配である」が39.2%であり、「健康に不安がある」が38.3%、「地震や火災が起きたときの避難がある」が28.3%であった。

(5) 地域包括支援センターを知っているか質問したところ、知っている又は利用したことがある方は42%となっていた。前回調査（3年前）では、地域包括支援センターを理解している方は31%であり、徐々に浸透していることがうかがえる。

## 2 特別養護老人ホーム待機者調査

- (1) 待機者本人の要介護度別の構成比は、軽度（要介護1・2）9%（前回35%）、中度（要介護3）34%（前回24%）、重度（要介護4・5）59%（前回40%）となり、平成27年度から入所基準が「原則として要介護3以上」へ変更された影響が強く出た。
- (2) 世帯構成は、一人暮らしが16%、配偶者と同居が31%、子どもと同居が37%であり、「日常生活圏域調査」と比較し、一人暮らしが多く配偶者と同居の割合が少ない。
- (3) 生活の場所では、現在の所在地が病院・施設等54%。自宅41%。自宅の内、73%が一戸建てに居住。「入所申し込み理由」は「家族が介護を続けることが困難になったため」が52%、「今は自宅で生活できているが、将来に対する不安を感じたため」が34%。
- (4) 「在宅生活を続けるために困っていること」で上位は、「介護に適した住宅に改修できない」が27%、「1日に何度か、必要があれば24時間訪問してくれるサービスがない」が23%、「収入が少なくサービスが必要なだけ利用できない」が19%。
- (5) 特養に申込みをする際に重視している点は、「費用が安い」が2～4人が1室で暮らす多床室が45.4%、「費用は高いが個室であるユニット型」が15.9%。また、費用や部屋タイプに関わらず「現在住んでいる場所から近いこと」を重視する方が25.7%。
- (6) 「支払い額がいくらまでならすぐに入所を決断するか？」は、多床室の費用の目安とされている「月額10万円以下」が55.4%。
- (7) 「施設から入所できますとの連絡が来たことがあるか？」は「連絡があったが断った経験がある」という方が18.9%いた。その理由として、半数が「まだ在宅での生活をつづけているため」と回答

## 3 ケアマネジャー調査

- (1) 業務の経験年数（従事期間）について質問したところ、7年以上が44.1%、5年～7年が20.5%と5年以上の経験者が64.6%。前回調査（3年前）では5年以上の方の割合は57.2%であった。
- (2) ケアマネジャーが担当している利用者数は平均33.1人（柏市民の利用者に限ると平均28.7人）。
- (3) 利用者や家族からの苦情は、「介護保険制度そのもの」が47%、「サービスの質や内容」が43%、「従事者の資質等」が30%の順。
- (4) 介護給付について利用者や家族が利用を希望しているサービスは、

多い順に「通所介護」「福祉用具貸与」「訪問介護」。次に、現在不足又は今後充実させるべきサービスは、「通所リハビリテーション」「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」「夜間対応型訪問介護」「認知症対応型通所介護」の順。

- (5) 総合事業では、利用者や家族の利用希望は現行相当サービスが多い（訪問介護相当サービス36%、通所介護相当サービス40%）。現在不足している、将来充実させるべきサービスは、住民主体で助け合いを進める「訪問型サービスB」との回答が比較的多かった（23.6%）。
- (6) インフォーマルサービスを含め在宅生活を支えるために充実が必要なサービスは「ごみ出し」が最も多く挙げられていた（78.6%）。
- (7) 柏市が独自に実施している在宅福祉サービスで利用希望が多いサービスは、「介護用品（紙おむつ）給付」が約6割であった。
- (8) 医療機関との連携について、「連携がとれている」「まあとれている」の合計が4割。「サービス提供事業者」や「地域包括支援センター」との連携と比べ、比較的少なかった。医療連携を進めていく上の課題は、「訪問診療を行う医師の確保」「緊急時の入院の受け入れ先の確保」「退院情報のタイムリーな提供や医療ソーシャルワーカー（MSW）との連携体制の構築」の順。
- (9) 地域包括支援センターとの関係性は「よく機能している」と6割以上のケアマネジャーが評価している項目は「地域ケア会議」「地域の総合相談」「ケアマネジャーへの相談支援」「介護予防サービス計画」「ケアマネジャーのネットワーク作り」。

#### 4 サービス未利用者調査

- (1) 回答者の分布では、要支援1～要介護2の軽度者が58%。
- (2) 「介護・介助の有無」では、「受けていない」「必要ない」の合計が45%、「受けている」が41%とほぼ同数。  
要介護度別では要支援1・2は「受けていない」「必要ない」が63%、要介護1～5で「受けている」が67%と介護度と相関が高い。
- (3) サービスを利用していない理由は、「できるだけ他人の世話になりたくない（28.8%）」「家族等の介護で十分（23.9%）」「病院等に入院（14.2%）」の順。「他人の世話になりたくない」「他人を家にいれたくない」を併せるとそ3分の1であった。